

# 公益社団法人低温工学・超電導学会 第 16 回社員総会資料

日 時 令和 8 年 6 月 3 日 (水) 17:00~18:00  
会 場 横浜市開港記念会館 (A 会場)  
〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町 1 丁目 6-6

---

## 第 16 回公益社団法人低温工学・超電導学会社員総会次第

1. 総会成立確認
  2. 会 長 挨 拶
  3. 議 長 選 出
  4. 第 1 号議案 令和 7 年度事業報告、決算報告に関する件
  5. 第 2 号議案 次期役員を選任に関する件  
理事：令和 8 年度、9 年度  
監事：令和 8 年度から令和 11 年度
  6. 報 告 事 項 令和 8 年度事業計画、予算計画
  7. 議事録署名人選出
  8. 総会終了挨拶
- 

## 令和 8 年度褒賞授与、フェロー顕彰式次第

1. 褒賞選考経過報告
2. 褒賞授与
3. フェロー選考経過報告
4. 顕彰



# 第1号議案資料

## 令和7年度事業報告

### I 公益目的事業 [1]

#### (1) 研究発表会事業

##### 1) 2025年春季低温工学・超電導学会研究発表会 (通算第109回)

- ・会期:2025年5月28~30日
- ・会場:タワーホール船堀(東京都)+オンライン
- ・参加者:342名
- ・発表件数:137件
- ・併設展示会:28件

##### 2) 2025年秋季低温工学・超電導学会研究発表会 (通算第110回)

- ・会期:2025年12月9~11日
- ・会場:エブノ泉の森ホール(大阪市泉佐野市)+オンライン
- ・参加者:398名
- ・発表件数:198件
- ・併設展示会:24件

##### 3) 調査研究会として、次の6テーマを実施した。

- ・小型核融合用REBCO導体とマグネットの実用化に関する調査研究会(2023~2025年度、継続)
- ・中温度域超伝導材料の機能性に関する調査研究会(2023~2025年度、継続)
- ・高温超伝導バルク体の産業応用に関する調査研究会(2023~2025年度、継続)
- ・核融合技術を含む超伝導分野での液体水素利用に関する調査研究会(2025~2026年度、新規)
- ・原子力・放射線分野における磁場・超電導機器の応用可能性に関する調査研究会(2025~2027年度、新規)
- ・多様な磁場発生手法とその応用に関する調査研究会(2025~2027年度、新規)

#### 2) 学会誌出版事業

##### 1) 第60巻3号~61巻2号の6号を発行した。

##### 2) 特集テーマとして以下を掲載した。

60巻5号:特集「高温超電導小型核融合炉の開発現状および課題と期待」

##### 3) 出版費用抑制と誌面充実のバランスについてあるべき姿を議論した。

##### 4) 学会誌電子書籍化、電子書庫の利用、オンデマンド冊子印刷導入に関する調査、メリットとデメリットの分析を行った。

#### (3) 国際交流事業

- ##### 1) 若手研究者国際交流奨励プログラム(国際交流奨励賞):
- 春季ならびに秋季研究発表会において募集を行い、秋季大会において1名の候補者を選定し、褒賞委員会に推薦を行った。

#### 2) QUEST2025への協力

IEEE CSCとの協働事業として、国際交流委員会メンバーでもあるOlivia Chen氏をGeneral Chairとした2nd Int'1 Workshop on Quantum, Cryogenic and Superconductive Computing(QUEST2025)の開催(2025年10月27~29日、Yokohama City Port Opening Memorial Hall)に協力した。

#### 3) ACASC/Asian-ICMCの開催準備を進めた。

#### 4) 海外学会等との連携

- ・IEEE CSC AdCom会議(対面)に出席し、協働事業の実施報告を行った(2025年7月1日、Boston, USA)。
- ・欧州応用超電導学会(ESAS) Board Meetingに出席し、ESASとの協賛事業としてPASREG2025の実施予定について報告した(2025年9月21日、Porto, Portugal)。
- ・Superconductivity Global Alliance(ScGA)活動に協力した。

#### (4) 広報・広告関連事業

- ##### 1) 社会に対する広告活動としてHPにて各種イベント開催案内を行った。賛助会員ページの保守を行った。
- ##### 2) 学会員、企業会員への広報活動として内部広報を実施した。
- ##### 3) 学会HPにおける電子広告の実装方法について検討した。
- ##### 4) 学会誌および講演概要集電子化に伴う広告の形態について検討した。

#### (5) ホームページ事業

- ##### 1) 学会ホームページの維持・更新を継続した。
- ##### 2) 英語版ホームページの充実化を継続した。
- ##### 3) 学会諸活動の情宣を継続した。

#### (6) 教育・セミナー事業

- ##### 1) 2025年5月31日に市民公開講座「超電導と極低温の世界」を東京都江東区の日本科学未来館で開催した。参加者:712名(子ども212名、大人500名)

#### (7) 環境・安全関係事業

- ##### 1) 環境・安全委員会の委員会会合を4回開催した(オンラインおよび対面)。
- ##### 2) 冷凍部会との共催で、2025年度第5回冷凍部会(公開)例会/環境・安全委員会合同ワーキングをハイブリッドで開催した(2025年12月16日)。テーマを「安全な水素社会に向けた高圧ガス保安協会の取り組み」とし、2名の講師を迎え、参加者数は73名(会場34名、オンライン39名)であった。
- ##### 3) 昨年度実施した極低温機器の信頼性に関するアンケートの分析を進め、2025年度秋季研究発表会にて中間報告を行い、2026年度春季研究発表会にて最終報告を予定する。
- ##### 4) 日本学術会議主催の安全工学シンポジウムに共催し、シンポジウム(2025年6月25~27日)における連携パネルディスカッション「安全をマネジメントする枠組みの現状と課題:社会と共創する安全マネジメントの実現に向けて」に神谷委員がパネラー登壇した。なお、本件シンポジウムには池内委員が実行委員会メンバーとして参画している。

- 5) 初級者向け安全テキストの編纂を完了し、学会 HP にて公開した。
- 6) 日本冷凍空調学会誌における特集「極低温と安全」に対し、委員 7 名が分担執筆して、安全への取り組み紹介記事を投稿した（掲載：2026 年 7 月）。
- (8) 研究会事業
- 1) 材料研究会として、委員会を2回、シンポジウムを4回開催した。
    - ・第1回シンポジウム：液体水素関連の研究開発の最前線、2025年6月20日、物質・材料研究機構(NIMS)桜地区。参加者：36名。
    - ・第2回シンポジウム（超電導応用研究会、冷凍部会と共催）：ナノテラス見学会、2025年8月28日、3GeV高輝度放射光施設 NanoTerasu。参加者：35名。
    - ・第3回シンポジウム（九州・西日本支部と共催）：多結晶材料の微細構造制御と機能向上、2025年12月5日、九州大学筑紫キャンパス。参加者：28名。
    - ・第4回シンポジウム：核融合を念頭においた超伝導マグネット材料への照射耐性、2026年3月26～27日、和歌山県白浜町湯処ひろべ。参加者：34名。
  - 2) 超電導応用研究会として、委員会を2回、幹事会を1回、シンポジウムを4回開催した。
    - ・第1回（冷凍部会、材料研究会との共催）、ナノテラス見学会、ナノテラスで開催、2025年8月28日、2件の講演と見学会、35名参加
    - ・第2回（関西支部との共催）、低温環境における放射光実験、Spring-8において開催、2025年10月10日、参加者51名。
    - ・第3回、実用まぢか 高温超電導線材を用いた鉄道き電線および超高磁場 NMR の社会実装、エブノ泉の森ホールで開催、2025年12月11日。
    - ・第4回、放射線治療への超電導応用、量子科学技術研究開発機構の放射線医学研究所において開催、2026年2月16日、参加者26名。
    - ・超電導の将来動向を調査し、超電導技術の進展を目指すため、電気学会超電導機器技術委員会と連携し、「超電導機器技術の将来的な技術動向」協同研究委員会の活動を行い、技術報告書「将来的超電導活用に向けた超電導機器技術の整理」を2026年2月に発行した。（電気学会内）
- (9) 関西支部事業
- 1) 支部総会を2025年5月16日に同志社大学京田辺キャンパス情報メディア館にて対面とオンラインの併用で開催した。出席者83名、委任状提出者31名で2024年度事業報告および2025年度事業計画が承認された。
  - 2) 第1回講演会・見学会を支部総会の後、開催した。2件の講演と、講演に関わる装置・設備を見学した。参加者は61名。
  - 3) 第41回低温工学基礎技術講習会を(社)日本表面真空学会関西支部および(社)応用物理学会関西支部の協賛により2025年9月3日に大阪公立大学文化交流センターにおいて講義の部を、2025年9月1～2日に京都大学と大阪大学にて、それぞれ「低温物性基礎実験」、「超伝導基礎物性の測定および磁気分離技術」の実習を行った。参加者は学生が1名、企業の若手技術者9名の計10名。
- 4) 第2回講演会を2025年10月10日に大型放射光施設 SPring-8で「低温環境における放射光実験」として開催した。3件の講演が行われた。参加者は35名。
- 5) 第3回講演会を2026年1月30日に大阪公立大学文化交流センターホールにおいて「新年情報交換の集い」として開催した。4件の講演が行われた。参加者は38名。
- 6) 特別講演会として第24回低温工学・超伝導若手合同講演会を(社)応用物理学会関西支部、(社)日本表面真空学会関西支部およびセンシング技術応用研究会の協賛により2025年11月14日に関西学院大学大阪梅田キャンパスにて実施した。16件の発表があり、参加者は39名。最優秀講演者1名に信貴賞、優秀講演者4名に若手奨励賞を授与した。
- 7) 役員会を4回開催した。
- 8) 諮問委員会を2026年3月19日に実施した。
- (10) 東北・北海道支部事業
- 1) 支部総会、記念講演会、事業会員企業の紹介、学生研究交流会の紹介を2025年4月18日に東北大学金属材料研究所において対面で実施した。記念講演会は早稲田大学名誉教授石山敦士氏による「超電導線材の特性を活かすコイル化技術とその応用」という題目で実施した。参加者は総会34名、記念講演会24名、事業会員企業の紹介20名、学生研究交流会の紹介20名。
  - 2) 若手セミナーを2025年9月1～3日に東北大学金属材料研究所2号館講堂で開催した。講義、学生発表会、施設見学のほか実習も行った。参加者は40名。
  - 3) 東北・北海道支部30周年記念イベントを2025年10月30日に開催した。午前中のNanoTerasu見学会の後、午後は会場を2号館講堂に移して「東北・北海道のリソース」と題した記念講演会と記念祝賀会を行った。講演会参加者44名。
  - 4) 市民講演会を「超電導リニアと共に…」と題して、2025年11月22日に、東北大学金属材料研究所2号館講堂とオンラインのハイブリッドで開催した。参加者は108名（現地40名、オンライン68名）
  - 5) 合同学術講演会を2025年12月4～5日に応用物理学会東北支部主催、低温工学・超電導学会東北・北海道支部共催として実施した。
  - 6) 役員会を年3回ハイブリッドで開催した。
  - 7) 学生企画イベントとしての学生研究交流会を2025年9月29日にオンラインで、学生・若手交流会を2025年12月9日に研究発表会D会場（エブノ泉の森ホール）で開催した。学生・若手交流会は若手の会との合同での開催。参加者は学生研究交流会30名、学生・若手交流会は54名。
- (11) 九州・西日本支部事業
- 1) 支部総会を2025年4月24日にオンラインで実施した。
  - 2) 企業セミナーを2025年12月12日にハイブリッド形式で実施した。参加者51名。

- 3) 支部研究会を材料研究会と合同で2025年12月5日にハイブリッド形式で実施した。参加者28名。
- 4) 若手イベント・支部成果発表会を2025年12月6日にハイブリッド形式で実施した。参加者41名。
- 5) 支部内の活動ならびに低温・超電導技術に関する報告をまとめた超電導・低温技術レポート2025 Vol. 19を2025年7月に発行した。
- 6) 役員会を3回開催した。
- 7) 支部奨励賞を2026年3月に授与した。

#### (1 2) 冷凍部会事業

- 1) 例会として講演会、見学会等を当初計画通り6回実施した。
  - ・第1回：基礎講座「冷凍技術～極低温から室温まで～」(公開) 2025年4月11日に川崎重工(株)東京本社で開催した(ハイブリッド形式)。参加者29名。
  - ・第2回：「超電導き電システム見学会」 2025年5月23日に伊豆箱根鉄道・駿豆線 大仁駅で開催した。参加者18名。
  - ・第3回：「ナノテラス見学会」(公開)(超電導応用研究会/材料研究会 共催) 2025年8月28日に3GeV高輝度放射光施設ナノテラスで開催した。参加者35名。
  - ・第4回：国際会議報告会(公開) 2025年10月31日, 11月1日に沼津・KKRで開催した。参加者は日帰り参加者、講師を含め23名。
  - ・第5回：環境・安全委員会合同ワーキング「安全な水素社会に向けた高圧ガス保安協会の取り組み」(公開) 2025年12月16日に川崎重工(株)東京本社で開催した(ハイブリッド形式)。参加者は73名。
  - ・第6回：「量子コンピュータの産業化に向けたG-QuATの取り組み」 2026年1月22日に産総研・つくばで開催した。参加者25名。
- 2) 冷凍部会総会を2025年4月11日に川崎重工(株)東京本社で開催した。運営委員会を6回開催した。
- 3) 2024年度冷凍部会年間講演集を発行し、会員に配布した。
- 4) 低温技術夏合宿「77K小型冷凍機を作ろう」 2025年7月28日～8月1日に開催した。受講者6名。

#### (1 3) 基盤強化事業

- 1) 財政基盤強化策として、正会員費、研究発表会参加費、研究発表会併設展示会の出展費用の見直しを行い、研究発表会参加費、研究発表会併設展示会については、2025年春季研究発表会より実施した。正会員費については、第15回社員総会で承認を得、2026年度より実施する。(庶務委員会)
- 2) 2025年度賛助会員懇談会を開催した。春季および秋季研究発表会において賛助会員特別招待券を運用した。(庶務委員会)
- 3) 春季研究発表会において特別セッション「フェロー塾」、秋季研究発表会において特別セッション「賛助会員と学生の交流会」および「学生・若手交流会」を開催した。
- 4) 若手の会勉強会を2025年8月5日に九州大学で、2026年3月23日に東京都立大学で開催した。
- 5) 市民公開講座と連携した第5回デモ機コンテストを2025年5月31日に日本科学未来館で開催した。

- (1 4) The 14th International Workshop on Processing and Applications of Superconducting (RE) BCO Materials (PASREG 2025)

第14回超電導バルク材料のプロセッシングと応用に関する国際会議(14th International Workshop Processing and Application of Superconducting)を開催した。

- ・会期：2025年11月28～30日
- ・会場：東京海洋大学品川キャンパス+オンライン
- ・参加者：68名
- ・発表件数：54件

- (1 5) 運営委員会開催 4回。

## II 公益目的事業 [2]

### (1) 褒賞事業

#### 1) 令和7年度褒賞

- ・論文賞(学術)
  - 受賞者：今川 信作(核融合科学研究所)
  - 受賞対象論文：「NbTi 超伝導導体の回復電流に対する外部磁場分布の影響」低温工学 第59巻3号, 114～122 頁
- ・論文賞(技術)
  - 受賞者：土屋 清澄, 王 旭東(高エネルギー加速器研究機構), 藤田 真司((株)フジクラ), 有本 靖, 大内徳人, 宗 占國(高エネルギー加速器研究機構), 菊池 章弘(物質・材料研究機構)
  - 受賞対象論文：「加速器用高温超伝導六極磁石の開発」低温工学 第59巻4号, 246～254 頁
- ・解題論文賞
  - 受賞者：波頭 経裕(超電導センサテクノロジー(株))
  - 受賞対象論文：「高温超電導量子センシングを用いた地下深部探査によるカーボンニュートラルへの貢献」低温工学 第59巻1号, 3～10 頁
- ・奨励賞
  - 受賞者：曾我部 友輔(京都大学)
  - 受賞者：武田 泰明(物質・材料研究機構)
- ・業績賞(学術業績)
  - 該当者なし
- ・業績賞(工業技術業績)
  - 該当者なし
- ・功績賞(学術・技術功績)
  - 受賞者：松下 照男(九州工業大学)
- ・功績賞(学会活動功績)
  - 受賞者：春山 富義(東京大学)
- ・優良発表賞
  - 受賞者：
    - 秋谷 一樹(筑波大学)「能動的蓄冷式磁気冷凍を活用した液体空気貯蔵システムの性能評価」
    - 河野 亮介(東京大学)「液体水素ポンプへの適用を目指した超電導同期モータにおける常電導同期モータとの比較検討」
    - 呉 澤宇(九州大学)「機械学習を導入したリアル式磁気

顕微鏡観察による REBCO 線材の局所不均一性のプロセス依存性の比較と汎用的評価手法への展開

相楽 和豊 (青山学院大学) 「酸化物原料を用いた FF-MOD 法 Y123 薄膜における共添加効果」

高橋 俊一 (山梨大学) 「高 Q 値超伝導共振器を用いた長距離電界共振結合方式無線電力伝送」

武田 泰明 (物質・材料研究機構) 「REBCO 超伝導接合の  $I_c$  の温度および磁場印加角度依存性」

濱田 大夢 (鹿児島大学) 「非正弦波・高周波電流通電時の Bi-2223 サンプルコイルの交流損失特性の評価」

矢島 健大 (明治大学) 「 $MgB_2$  ラザフォード導体短尺試験のための銅電流リードの開発」

安川 直輝 (東京理科大学) 「時間依存 Ginzburg-Landau シミュレーションを用いた超伝導三端子素子のパルス電流動作におけるインピーダンス解析」

矢野 俊 (鉄道総合技術研究所) 「超伝導バルクの高性能化に向けた YBCO の核生成・核成長の解明」

#### ・国際交流奨励賞

該当者なし

#### ・科学技術インパクト賞

該当者なし

#### 2) 令和7年度フェロー顕彰

・飯島 康裕 (株式会社フジクラ)

・栗山 透 (東芝エネルギーシステムズ株式会社)

・藤代 博之 (岩手大学)

・吉田 茂 (核融合科学研究所)

### III 法人関連事業 (共催、協賛及びシンポジウム・講演会等)

#### 1. 社員総会・理事会等に関する事項

##### (1) 第15回社員総会

1) 日時: 2025年5月29日

2) 場所: タワーホール船堀 (東京都)

3) 議案: 第1号議案 令和6年度 年度事業報告、決算報告に関する件

第2号議案 会員規程の改定に関する件

4) 報告: 令和7年度事業計画、予算計画

##### (2) 理事会開催 定例4回

##### (3) 法人の運営体制の充実を図るための取り組み

役員選任規程を改正し、外部理事及び外部監事を設けることとした。2026年3月の次期役員に関する選挙公告では、現在当法人の社員でない者、且つ過去10年間において当法人の理事又は使用人でなかった人物を外部理事候補者及び外部監事候補者とした。

#### 2. 主催、共催、協賛及び後援のシンポジウム・講演会等

(1) 日本機械学会 (幹事学会)、空気調和・衛生工学会、日本冷凍空調学会共催 「第59回空気調和・冷凍連合講演会」 協賛 2026年4月16~17日 (於: 東京海洋大学)

(2) 日本冷凍空調学会, 日本機械学会, 空気調和・衛生工学会共催 「第58回空気調和・冷凍連合講演会」 協賛 2025年4月17~18日

(3) 日本伝熱学会主催 「第62回日本伝熱シンポジウム」 協賛 2025年5月14~17日 (於: 沖縄コンベンションセンター)

(4) 日本 AEM 学会主催、日本機械学会、電気学会共催 「第38回電磁力関連のダイナミクスシンポジウム (SEAD38)」 協賛 2026年5月19~21日 (於: 水戸市民会館)

(5) 日本表面真空学会主催 「第60回真空技術基礎講習会」 協賛 2025年5月20~23日 (於: 大阪産業技術研究所)

(6) 日本学術会議・総合工学委員会主催 「安全工学シンポジウム 2026」 共催 2026年6月24~26日 (於: 日本学術会議およびオンライン)

(7) 日本機械学会 動力エネルギーシステム部門主催 「第29回動力・エネルギー技術シンポジウム」 協賛 2025年6月5~6日 (於: 金沢大学角間キャンパス)

(8) 日本学術会議・総合工学委員会主催 「安全工学シンポジウム 2025」 共催 2025年6月25~27日 (於: 日本学術会議)

##### (9) 応用物理学会超伝導分科会主催

「超伝導分科会 第71回研究会」

協賛 2025年7月25日 (於: 同志社大学東京オフィス)

(10) 日本真空工業会主催 「第30回真空ウォーキングコース」 協賛 2024年8月25~29日 (於: 工学院大学八王子キャンパス)

(11) 日本混相学会主催 「混相流シンポジウム 2025」 協賛 2025年9月3~5日 (於: 神戸大学)

(12) 東北大学流体科学研究所主催 「ICFD2025 "Twenty-second International Conference on Flow Dynamics "」 協賛 2025年11月10~13日 (於: ハイブリッド会議、仙台国際センター)

(13) 国際超伝導シンポジウム (ISS) 実行員会主催 「第38回国際超伝導シンポジウム (ISS2025)」 後援 2025年12月2~4日 (於: 出島メッセ長崎)

##### (14) 日本表面真空学会主催

「第62回夏季大会」

協賛 2025年8月26~29日 (於: 八王子市生涯学習センター)

(15) 日本冷凍空調学会主催 「2025年度日本冷凍空調学会年次大会」 協賛 2025年9月10~12日 (於: 東京大学本郷キャンパス)

(16) 日本機械学会主催 「講習会: 『伝熱工学資料 (改訂第5版)』 の内容を教材にした熱設計の基礎と応用」 協賛 2025年9月17~18日 (オンライン)

(17) 産業技術総合研究所 応用超伝導コンソーシアム主催 「第10回超伝導スクール (2025)」 後援 2025年10月9日 (於: ビジョンセンター東京八重洲)

(18) 日本表面真空学会主催 「2025年日本表面真空学会学術講演会」 協賛 2025年10月20~22日 (於: つくば国際会議場)

(19) 横浜国立大学先端科学高等研究院、九州大学量子コンピューティングシステム研究センター、一般社団法人 Aozorium 主催 「QUEST 2025 (2nd International Workshop on Quantum, Cryogenic and Superconductive Computing 2025)」 協賛

- 2025年10月27～29日（於：横浜開港記念会館）
- (20) ミレニアム・サイエンス・フォーラム主催「第27回ミレニアム・サイエンス・フォーラム」後援 2025年11月14日（於：駐日英国大使館）
- (21) 応用物理学会 超伝導分科会 第72回研究会「データ駆動科学が拓く超伝導研究の新展開」協賛 2025年11月25日（於：京都大学東京オフィス）
- (22) 日本真空工業会、日本表面真空学会、日刊工業新聞社「VACUUM2025 真空展」協賛 2025年12月3～5日（於：東京ビッグサイト南ホール）
- (23) 日本機械学会主催「第27回スターリングサイクルシンポジウム」協賛 2025年12月13日（於：明治大学駿河台キャンパス）
- (24) 日本工学会主催「第7回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」協賛 2026年3月4日（オンライン開催）
- (25) 電気学会金属・セラミックス技術委員会主催「電気学会全国大会シンポジウム」協賛 2026年3月12～14日いずれの日か予定（於：東北学院大学）

#### IV. 会員に関する事項

##### 1. 正会員、学生会員

2026年3月31日 現在 930名  
正会員 750名 学生会員 180名  
2025年3月31日 現在 879名  
正会員 746名 学生会員 133名

##### 2. 賛助会員

2026年3月31日現在 59社 (112口)  
2025年3月31日現在 58社 (109口)

##### 3. 事業会員

###### ・関西支部

2026年3月31日現在 28社 (34口)  
2025年3月31日現在 28社 (38口)

###### ・東北・北海道支部

2026年3月31日現在 8社 (8口)  
2025年3月31日現在 8社 (8口)

###### ・九州・西日本支部

2026年3月31日現在 13社 (15口)  
2025年3月31日現在 13社 (15口)

###### ・冷凍部会

2026年3月31日現在  
[民間] 23社 [大学・国法] 13所 [図書] 11所  
[個人] 2名  
2025年3月31日現在  
[民間] 22社 [大学・国法] 12所 [図書] 12所  
[個人] 2名

###### ・図書会員

2026年3月31日現在 14社 (17口)  
2025年3月31日現在 16社 (19口)

貸借対照表

令和 8年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	24,397,957	11,410,536	12,987,421
未収入金	259,000	252,000	7,000
前払金	398,000	341,760	56,240
前払費用	10,060	15,090	△ 5,030
流動資産合計	25,065,017	12,019,386	13,045,631
<b>2. 固定資産</b>			
(1) 基本財産			
基本財産	7,600,000	7,600,000	0
基本財産合計	7,600,000	7,600,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	2,678,000	2,271,600	406,400
事務所修繕費積立資産	1,642,978	1,642,978	0
記念事業積立資産	680,000	3,297,794	△ 2,617,794
出版事業強化事業積立資産	12,500,000	15,000,000	△ 2,500,000
基盤強化事業Ⅱ積立資産	2,057,988	2,244,284	△ 186,296
国際会議準備事業積立資産	943,494	943,494	0
教育・セミナー積立資産	1,102,000	1,102,000	0
褒賞事業積立資産	2,598,033	3,194,942	△ 596,909
特定資産合計	24,202,493	29,697,092	△ 5,494,599
(3) その他固定資産			
建物	2,149,005	2,284,257	△ 135,252
土地	2,040,000	2,040,000	0
ソフトウェア	0	289,147	△ 289,147
敷金	210,000	210,000	0
その他固定資産合計	4,399,005	4,823,404	△ 424,399
固定資産合計	36,201,498	42,120,496	△ 5,918,998
<b>資産合計</b>	61,266,515	54,139,882	7,126,633
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	1,662,713	636,303	1,026,410
前受金	185,000	439,500	△ 254,500
預り金	173,497	108,650	64,847
仮受金	4,500	0	4,500
未払消費税等	727,600	0	727,600
流動負債合計	2,753,310	1,184,453	1,568,857
<b>2. 固定負債</b>			
退職給付引当金	2,678,000	2,271,600	406,400
固定負債合計	2,678,000	2,271,600	406,400
<b>負債合計</b>	5,431,310	3,456,053	1,975,257
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
指定正味財産合計	0	0	0
<b>2. 一般正味財産</b>			
(うち 基本財産への充当額)	(7,600,000)	(7,600,000)	(0)
(うち 特定資産への充当額)	(21,524,493)	(27,425,492)	(△5,900,999)
<b>正味財産合計</b>	55,835,205	50,683,829	5,151,376
<b>負債及び正味財産合計</b>	61,266,515	54,139,882	7,126,633

# 正味財産増減計算書

令和 7年 4月 1日から令和 8年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,789	3,411	1,378
基本財産運用収入	4,789	3,411	1,378
特定資産運用益	50,379	10,250	40,129
特定資産受取利息	50,379	10,250	40,129
受取会費	16,361,290	16,265,274	96,016
正会員会費収入	5,810,500	6,127,000	△ 316,500
賛助会員会費収入	6,720,000	6,540,000	180,000
学生会員会費収入	652,500	577,500	75,000
事業会員会費収入	3,178,290	3,020,774	157,516
関西支部会費	760,000	760,000	0
東北・北海道支部会費	160,000	160,000	0
九州・西日本支部会費	300,000	300,000	0
冷凍部会会費	1,612,000	1,593,000	19,000
図書会費	346,290	207,774	138,516
事業収益	22,861,836	24,008,888	△ 1,147,052
研究会・講習会収入	18,781,100	19,440,900	△ 659,800
出版収入	650,736	916,638	△ 265,902
広告収入	3,430,000	2,852,500	577,500
寄付金収入	0	798,850	△ 798,850
受取補助金等	2,415,808	2,701,108	△ 285,300
コンベンション等補助金	0	1,835,000	△ 1,835,000
受取助成金	2,415,808	866,108	1,549,700
受取寄付金	182,953	0	182,953
雑収益	252,549	220,242	32,307
受取利息	46,072	10,363	35,709
雑収入	206,477	209,879	△ 3,402
経常収益計	42,129,604	43,209,173	△ 1,079,569
(2) 経常費用			
事業費	31,326,042	32,814,573	△ 1,488,531
給料手当	6,657,598	6,450,042	207,556
臨時雇賃金	427,653	462,217	△ 34,564
退職給付費用	288,381	207,872	80,509
福利厚生費	982,866	947,728	35,138
会議費	3,852,717	3,793,647	59,070
旅費交通費	2,931,099	2,673,271	257,828
通信運搬費	1,585,592	1,509,354	76,238
減価償却費	479,432	458,640	20,792
消耗品費	442,770	1,450,104	△ 1,007,334
修繕費	390,720	0	390,720
印刷製本費	5,057,145	5,910,843	△ 853,698
光熱水料費	96,550	109,761	△ 13,211
賃借料	2,282,527	2,765,478	△ 482,951
諸謝金	1,404,458	2,206,471	△ 802,013
諸会費	67,853	64,188	3,665
租税公課	543,415	67,099	476,316
報償費	784,280	716,240	68,040
支払負担金	101,000	201,000	△ 100,000
委託費	1,847,296	2,459,422	△ 612,126
支払手数料	972,580	0	972,580
雑費	130,110	361,196	△ 231,086
管理費	5,652,186	5,106,581	545,605
給料手当	2,724,587	2,945,504	△ 220,917
退職給付費用	118,019	94,928	23,091

科 目	当年度	前年度	増 減
福利厚生費	402,232	432,793	△ 30,561
会議費	25,244	7,965	17,279
旅費交通費	223,632	311,527	△ 87,895
通信運搬費	387,935	260,814	127,121
減価償却費	168,509	79,092	89,417
消耗品費	126,164	254,269	△ 128,105
修繕費	260,480	0	260,480
印刷製本費	144,115	17,655	126,460
光熱水料費	39,513	50,124	△ 10,611
賃借料	324,474	313,669	10,805
諸会費	27,768	29,312	△ 1,544
租税公課	221,285	30,082	191,203
委託費	325,028	233,673	91,355
支払手数料	114,029	0	114,029
雑費	19,172	45,174	△ 26,002
経常費用計	36,978,228	37,921,154	△ 942,926
評価損益等調整前当期経常増減額	5,151,376	5,288,019	△ 136,643
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,151,376	5,288,019	△ 136,643
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,151,376	5,288,019	△ 136,643
一般正味財産期首残高	50,683,829	45,395,810	5,288,019
一般正味財産期末残高	55,835,205	50,683,829	5,151,376
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 基金増減の部			
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	0	0	0
基金期末残高	0	0	0
IV 正味財産期末残高	55,835,205	50,683,829	5,151,376

## 財務諸表に対する注記

1. 継続組織の全治に関する注記

該当事項なし

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

建物…定額法による減価償却を実施している。

什器備品…定額法による減価償却を実施している。

(2) 引当金の計上基準

退職給付引当金…従業員退職金の支給に備えるため期末要支給額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

税込方式を採用している。

3. 会計方針の変更

該当事項なし

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金 (注) 1	7,600,000	0	0	7,600,000
<b>小 計</b>	<b>7,600,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>7,600,000</b>
特定資産				
退職給付引当資産	2,271,600	406,400	0	2,678,000
事務所修繕費積立資産	1,642,978	0	0	1,642,978
記念事業積立資産	3,297,794	280,000	2,897,794	680,000
褒賞事業積立資産	3,194,942	0	596,909	2,598,033
出版事業強化Ⅱ事業積立資産	15,000,000	0	2,500,000	12,500,000
基盤強化事業Ⅱ積立資産	2,244,284	0	186,296	2,057,988
国際会議準備事業積立資産	943,494	0	0	943,494
教育・セミナー事業積立資産	1,102,000	0	0	1,102,000
<b>小 計</b>	<b>29,697,092</b>	<b>686,400</b>	<b>6,180,999</b>	<b>24,202,493</b>
<b>合 計</b>	<b>37,297,092</b>	<b>686,400</b>	<b>6,180,999</b>	<b>31,802,493</b>

(注) 1 故大山義年氏、故大島恵一氏、故門奈五兵氏及び故前田弘氏により寄贈された財産である。

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正 味財産からの 充当額)	(うち一般正 味財産からの 充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	7,600,000	(0)	(7,600,000)	(0)
<b>小 計</b>	<b>7,600,000</b>	<b>(0)</b>	<b>(7,600,000)</b>	<b>(0)</b>
特定資産				
退職給付引当資産	2,678,000	(0)	(0)	(2,678,000)
事務所修繕費積立資産	1,642,978	(0)	(1,642,978)	(0)
記念事業積立資産	680,000	(0)	(680,000)	(0)
褒賞事業積立資産	2,598,033	(0)	(2,598,033)	(0)
出版事業強化Ⅱ事業積立資産	12,500,000	(0)	(12,500,000)	(0)
基盤強化事業Ⅱ積立資産	2,057,988	(0)	(2,057,988)	(0)
国際会議準備事業積立資産	943,494	(0)	(943,494)	(0)
教育・セミナー事業積立資産	1,102,000	(0)	(1,102,000)	(0)
<b>小 計</b>	<b>24,202,493</b>	<b>(0)</b>	<b>(21,524,493)</b>	<b>(2,678,000)</b>
<b>合 計</b>	<b>31,802,493</b>	<b>(0)</b>	<b>(29,124,493)</b>	<b>(2,678,000)</b>

6. 担保に供している資産

該当事項なし

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	11,560,000	9,410,995	2,149,005
ソフトウェア	2,607,897	2,607,897	0
合計	14,167,897	12,018,892	2,149,005

8. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高  
該当事項なし

9. 保証債務等の偶発債務  
該当事項なし

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益  
該当事項なし

11. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
コンベンション開催助成金	一般社団法人泉佐野シティープロモーション推進協議会	0	750,000	750,000	0	
シャトルバス支援助成金	一般社団法人泉佐野シティープロモーション推進協議会	0	200,000	200,000	0	
子どもゆめ基金助成金	独立行政法人国立青少年教育振興機構	0	765,808	765,808	0	
助成金（国際研究集会開催経費援助）	公益財団法人井上科学振興財団	0	700,000	700,000	0	
合計		0	2,415,808	2,415,808	0	

12. 基金及び代替基金の増減額及びその残高  
該当事項なし

13. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳  
該当事項なし

14. 関連当事者との取引の内容  
該当事項なし

15. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引  
該当事項なし

16. 重要な後発事象  
該当事項なし

17. その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項  
該当事項なし

## 附属明細書

1. 基本財産および特定資産の明細

財務諸表に対する注記4. に記載している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	2,271,600	406,400	0	0	2,678,000

(注) 計上基準は財務諸表に対する注記1. (2) に記載している。

# 財 産 目 録

令和8年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額	
(流動資産)	現金	事務局	運転資金として	46,327
		冷凍部会	運転資金として	34,560
		九州・西日本支部	運転資金として	33,268
			合計	114,155
	普通預金	みずほ銀行本郷支店(事務局)	運転資金として	15,881,544
		みずほ銀行本郷支店(事務局)	春秋学会参加費受入用として	2,960,609
		みずほ銀行本郷支店(事務局)	運転資金として	132,977
		GMOあおぞらネット銀行(冷凍部会)	運転資金として	217,129
		三井住友銀行豊中支店(関西支部)	運転資金として	1,703,964
		福岡銀行黒門支店(九州・西日本支部)	運転資金として	1,691,873
			合計	22,588,096
	郵便振替	東京地方郵便局(事務局)	運転資金として	1,132,455
		ゆうちょ銀行一八店 (東北・北海道支部)	運転資金として	563,251
			合計	1,695,706
未収入金	㈱明報社 イベントペイ	学会誌(Vol.61-2)広告料	238,000	
		第4回材料研究会参加費	21,000	
		合計	259,000	
前払金	横浜市開港記念会館 さくらインターネット㈱	2026年度春季研究発表会会場費	390,300	
		2026年度ドメイン年間管理料	7,700	
		合計	398,000	
前払費用	みぞぐち商会	火災保険料(2026年度～2027年度分)	10,060	
流動資産合計			25,065,017	
基本財産	基本財産	みずほ銀行 定期預金	公益目的保有財産であり、運用益を諸事業並びに法人で使用している。	7,600,000
			合計	7,600,000
特定資産	退職給付引当資産	みずほ銀行 定期預金	職員の退職金の支払いに備えて積み立てた資産である。	2,678,000
	事務所修繕費積立資産	みずほ銀行 定期預金	事務所の修繕に備えるもの	1,642,978
	記念事業積立資産	みずほ銀行 普通預金	記念事業に備えて積み立てた特定資産であり、公益充実資金である。	680,000
	褒賞事業積立資産	みずほ銀行 普通預金	褒賞事業のために積み立てた特定資産であり、公益充実資金である。	2,598,033
	出版事業強化Ⅱ事業積立資産	みずほ銀行 普通預金	出版事業強化事業のために積み立てた特定資産であり、公益充実資金である。	12,500,000
	基盤強化事業Ⅱ積立資産	みずほ銀行 普通預金	学会の活性化に向けた活動のために積み立てた特定資産であり、公益充実資金である。	2,057,988
	国際会議準備事業積立資産	みずほ銀行 普通預金	国際会議準備事業のために積み立てた特定資産であり、公益充実資金である。	943,494
	教育・セミナー事業積立資産	みずほ銀行 普通預金	セミナー内容の充実・活性化のために積み立てた特定資産であり、公益充実資金である。	1,102,000
		合計	24,202,493	
その他固定資産	建物	東京都文京区 事務局	60%は諸事業の利用に相当する公益目的保有財産であり、40%は法人活動財産である。	2,149,005
	土地	東京都文京区本郷6-12-8 事務局建物敷地持分	60%は諸事業の利用に相当する公益目的保有財産であり、40%は法人活動財産である。	2,040,000
敷金	パレドール本郷301号室	同 上	210,000	
		合計	4,399,005	
固定資産合計			36,201,498	
資産合計			61,266,515	
(流動負債)	未払金	日本印刷㈱	学会誌61-2出版費用	549,149
		㈱ケーイー	301号室改修費用	651,200
		㈱シンメイ社	選挙投票用紙印刷発送	167,977
		文京年金事務所	社会保険料 3月分	62,505
		出塚会計事務所	業務委託料 3月分	44,000
		㈱庚伸	サポート料3月分	24,200
		GMOイブシロン㈱	決済サービス利用料3月分	72,972
		日本郵便㈱	投票用紙料金受取人払3月分	32,504
		白浜第一交通㈱	タクシー代 第4回材料研究会分	12,700
		尾崎壽紀	立替精算	29,550
		ニフティ㈱他	ビジネスアカウント管理料、他	15,956
			合計	1,662,713
	前受金	正会員および学生会員	2026年度会費	185,000
			合計	185,000

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
預り金	源泉所得税(給与分)	1月から3月分	82,400
	源泉所得税(諸謝金分)	3月分	13,169
	社会保険料	3月分	61,028
	住民税	3月分	16,900
		合計	173,497
仮受金			4,500
未払消費税等			727,600
流動負債合計			2,753,310
(固定負債)	退職給与引当金	職員に対するもの	職員の退職金の支払いに備えて積み立てた資産である。
			2,678,000
固定負債合計			2,678,000
負債合計			5,431,310
正味財産			55,835,205

# 監査報告書

公益社団法人 低温工学・超電導学会

代表理事・会長 秋田 調 殿

私たち監事は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの令和7事業年度の理事の職務並びに財産及び損益の状況を監査しました。その方法及び結果について、次のとおり報告します。

## 1. 監査の方法

私たち監事は理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、職務執行の状況を調査しました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

また、会計に関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び付属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関して不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

### (2) 計算書類及び付属明細書並びに財産目録の監査結果

- ① 計算書類及び付属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。
- ② 現金並びに預貯金は、適正に管理しているものと認めます。

2026年4月28日

公益社団法人 低温工学・超電導学会

監事 杉本昌弘 

監事 横山彰一 

## 第2号議案資料

### 次期役員候補者

#### 1. 理事（令和8年度から令和9年度）

下山 淳一 青山学院大学（会長候補者）

淡路 智 東北大学

木須 隆暢 九州大学

島崎 毅 産業技術総合研究所

杉本 昌弘 古河電工（株）

高畑 一也 核融合科学研究所

田口 裕章 （株）ジェック東理社

筑本 知子 大阪大学

鶴留 武尚 住友重機械工業（株）

戸坂 泰造 （株）東芝

野元 一宏 三菱電機（株）

平井 寛一 日本酸素（株）

古瀬 充穂 産業技術総合研究所

和久田 毅 （株）日立製作所

#### 2. 外部理事（令和8年度から令和9年度）

岡田 道哉 産業技術総合研究所

#### 3. 外部監事（令和8年度から令和11年度）

古川 大 アルバック・クライオ（株）

なお、横山彰一監事は非改選：任期 令和6年度～令和9年度

# 報告事項

## 令和8年度事業計画

### I 公益目的事業 [1]

#### (1) 研究発表会事業

- 1) 2026年春季低温工学・超電導学会研究発表会  
(通算第111回)

- ・会期：2026年6月2～4日
- ・会場：横浜市開港記念会館（神奈川県横浜市）
- ・併設展示会を開催する。

- 2) 2026年秋季低温工学・超電導学会研究発表会  
(通算第112回)

- ・会期：2026年12月8～10日
- ・会場：コラッセふくしま（福島県福島市）
- ・併設展示会を開催する。

- 3) 調査研究会として、次の5テーマを実施する。

- ・核融合技術を含む超電導分野での液体水素利用に関する調査研究会（2025～2026年度）（継続）
- ・原子力・放射線分野における磁場・超電導機器の応用可能性に関する調査研究会（2025～2027年度）（継続）
- ・多様な磁場発生手法とその応用に関する調査研究会（2025～2027年度）（継続）
- ・小型核融合用 REBCO 導体とマグネットの実用化に関する調査研究会（第2期）（2026～2028年度）（新規）
- ・高温超伝導バルク体の特性向上と応用に関する調査研究会（2026～2028年度）（新規）

#### (2) 学会誌出版事業

- 1) 第61巻3号～62巻2号の6冊を発行する。
- 2) 特集テーマとして以下の内容で企画することを検討している。

「超伝導技術の産業応用の現状と課題」

「液化水素大規模利用の基盤としての材料評価技術及び周辺技術」

「コイル設計者のための REBCO 線材諸特性」

また、材料、デバイス、冷却、機器関連などについても検討を進める。

- 3) 学会誌電子書籍化に関する検討を行う。

#### (3) 国際交流事業

- 1) 国際交流奨励賞：若手研究者の国際交流支援を目的に褒賞選考委員会に協力する。
- 2) 第8回アジア超電導スクールを IEEE Council on Superconductivity (CSC), The European Society for Applied Superconductivity (ESAS) との協力によって実施する。
- 3) 本学会の主催による開催が決まった The 12th Asian Conference on Applied Superconductivity and Cryogenics / 4th Asian International Cryogenic Materials Conference (12th ACASC/4th Asian-ICMC) の準備を引き続き進める。
- 4) IEEE Council on Superconductivity (CSC) Administrative Committee (AdCom) への出席・協働事業実施報告を行う。
- 5) The European Society for Applied Superconductivity (ESAS) 理事会への出席・協働事業実施報告を行う。

6) Superconductivity Global Alliance (ScGA) 活動に協力する。

7) The Korean Society of Superconductivity and Cryogenics (KSSC) との MOU 締結について、引き続き調整を進める。

#### (4) 広報・広告関連事業

- 1) 社会に対する広告活動としてホームページにて各種イベント開催案内を行うとともに、賛助会員企業紹介ページの拡充を行う。
- 2) 学会員、企業会員への広報活動として内部広報を実施する。
- 3) 学会 HP および学会誌等での電子媒体広告について検討する。

#### (5) ホームページ事業

- 1) ホームページの維持・管理を継続する。
- 2) ホームページのより広範な活用を進める。

#### (6) 教育・セミナー事業

- 1) 春季研究発表会に併せて市民公開講座を開催する。

#### (7) 環境・安全関係事業

- 1) 合同 WG を含む委員会活動を実施する。
- 2) 関連情報の入手のための安全工学シンポジウム共催。
- 3) 安全と信頼性アンケート WG の結果報告 (HP 又は学会誌)、委員会単独推進可能項目 (安全テキスト改訂等) の実施、および次期展開検討 (再アンケート含む)。
- 4) 昨年度 web 公開安全テキストの改訂。

#### (8) 研究会事業

- 1) 材料研究会として、シンポジウムを計4回開催する。そのうちの1回は九州・西日本支部と合同で開催する。
- 2) 超電導応用研究会として、シンポジウムを4回開催する。

#### (9) 関西支部事業

- 1) 関西支部総会を5月に開催する。
- 2) 関西支部講演会を5月、10月、1月に計3回開催する。
- 3) 低温工学基礎技術講習会を9月に開催する。
- 4) 低温工学・超伝導若手合同講演会を11月に開催する。
- 5) 役員会を4回開催する。
- 6) 関西支部事業会員向け報告書を作成する。

#### (10) 東北・北海道支部事業

- 1) 東北・北海道支部総会を4月に開催する。
- 2) 東北・北海道支部研究会を8月頃に開催する。
- 3) 学生研究交流会を11月頃に開催する。
- 4) 市民公開講演会を11月頃に開催する。
- 5) 九州・西日本支部との交流事業として講師を派遣する。
- 6) 役員会を年3回開催する。

#### (11) 九州・西日本支部事業

- 1) 九州・西日本支部総会・企業セミナーを4月に開催する。
- 2) 若手セミナーおよび支部成果発表会を1回開催する。
- 3) 材料研究会と合同で支部研究会を1回開催する。
- 4) 研究会・外国人著名研究者の特別講演会を1回開催する。
- 5) 超電導・低温技術レポートをまとめる。
- 6) 役員会を4回開催する。
- 7) 支部長賞及び支部奨励賞を授与する。

#### (12) 冷凍部会事業

- 1) 冷凍技術等に関する講演会、見学会等を年間6回程度実施する。海外で開催された学会の中から最新技術動向等の報告会も含める。
  - 2) 例会事業、低温技術講習等の事業に関する実行計画、及び次年度実施事業計画等を策定し、実施する。
  - 3) 前年度の講演会を取り纏めた年間講演集を発行し、会員に配布する。
  - 4) 冷却・冷凍・超電導に関する装置を製作し、その原理等を易しく説明する低温技術講習会を実施する。講習会対象者を学会員以外にも広げ、低温工学・超電導工学の啓発を図る。
- (1 3) 基盤強化事業
- 1) 財政基盤強化策を企画・実施する。
  - 2) 研究発表会併設展示会出展者との懇談会を開催する。春季および秋季研究発表会において賛助会員特別招待券を運用する。
  - 3) 賛助会員向けサービスとして製作した学会誌・研究発表会概要集のUSB在庫を有効活用する。
  - 4) 低温工学・超電導学会研究発表会において特別セッションを企画・実施する。
  - 5) 若手の会を企画・運営する。
  - 6) デモ機コンテスト等を企画・実施する
- (1 4) 運営委員会開催 4回開催

## II 公益目的事業 [2]

### (1) 褒賞事業

#### 1) 令和8年度褒賞

##### ・論文賞 (学術)

受賞者: 高畑一也 (核融合科学研究所)

受賞対象論文: 「液体窒素中における水平面上の遷移沸騰熱伝達」低温工学 第60巻1号13-20頁

##### ・論文賞 (学術)

受賞者: 寺尾悠 (京都大学)、淵野修一郎 (東京大学)、大屋正義 (関西学院大学)

受賞対象論文: 「サブマージドポンプへの適用を目指した着磁方向の異なるリング状永久磁石及び積層超電導体を用いたφ140mmの超電導磁気軸受の特性比較」低温工学 第60巻6号243-248頁

##### ・解説論文賞

受賞者: 江原悠太, 筒井裕士 (住友重機械工業(株))

受賞対象論文: 「陽子線治療向け超電導加速器の技術動向」低温工学 第60巻3号60-67頁

##### ・奨励賞

受賞者: 小野寺優太 (核融合科学研究所)

受賞者: 宇都達郎 (東芝エネルギーシステムズ(株))

##### ・業績賞 (学術業績)

応募者なし

##### ・業績賞 (工業技術業績)

受賞者: 仲村高志 (理化学研究所)、伊藤佳孝、柳陽介 ((株) アイシン)、内海博明 (日本電子(株))

##### ・功績賞 (学術・技術功績)

受賞者: 栗山透 (東芝エネルギーシステムズ(株))

##### ・功績賞 (学会活動功績)

応募者なし

##### ・優良発表賞

受賞者:

田村怜於 (東北大学) 「REBCO テープ線材のインジウム箔を用いたラップジョイントにおける接合抵抗の接合前プロセスおよび保管温度に対する依存性評価」

佐々湊太 (九州大学) 「水平配列 REBCO 超伝導線材の交流損失特性」

于澄 (東京大学) 「円筒型積層コーテッドコンダクターにおける強磁場捕捉」

箱石裕人 (岩手大学) 「一方向熔融成長法による Ag 添加 YBCO 超伝導体バルク作製におけるバッファペレットの効果」

錦織敏志 (岡山大学) 「伝導冷却下における極細超伝導線材の臨界電流と交流損失測定」

佐藤光一 (東北大学) 「REBCO 線材内部層間抵抗の界面ごとの個別測定とその妥当性評価」

佐野優太 (青山学院大学) 「REBCO 線材間超伝導接合における線材表面処理」

西岡 颯太郎 (新潟大学) 「高感度核磁気共鳴測定のための低ノイズシステムの開発」

黒川直樹 (東芝(株)) 「(Ho<sub>1-x</sub>Er<sub>x</sub>)Sb 合金の比熱混合による 4 K-GM 冷凍機の冷凍能力向上」

野尻将太 (青山学院大学) 「新規微粒子 B 原料を用いた B-rich 前駆体法 MgB<sub>2</sub> バルクの作製」

##### ・国際交流奨励賞

受賞者: 世良 真也 (九州大学)

##### ・科学技術インパクト賞

受賞者: (株) 西島製作所・(国) 京都大学共同研究チーム 三浦知仁、野間口慧、鳥田豪 ((株) 西島製作所)、中村 武恒 (京都大学)

受賞題目: 遠心型液化水素サブマージドポンプ

##### ・科学技術インパクト賞

受賞者: モビリティ向け軽量、小型、大出力超電導モータ開発チーム 三浦知仁、野間口慧、鳥田豪 ((株) 西島製作所)、中村 武恒 (京都大学)

受賞題目: モビリティ向け軽量、小型、大出力超電導モータの開発

#### 2) 令和8年度フェロー顕彰

##### ・上岡泰晴 ((同) コールドテック)

##### ・沼澤健則 (物質・材料研究機構)

##### ・春山 富義 (東京大学)

##### ・松本 要 氏 (名古屋大学)

## III. 法人関連事業

### (1) 社員総会・理事会等に関する事項

#### 1) 第16回社員総会

・日時: 2026年6月3日

・場所: 横浜市開港記念会館

・議案: 令和7年度事業報告, 決算報告, 役員選任, その他

・報告: 令和8年度事業計画および予算計画

#### 2) 理事会開催 定例4回

### (2) 共催、協賛及び後援のシンポジウム・講演会等

- 1) 低温工学・超電導学会主催「第111回低温工学・超電導学会研究発表会」2026年6月2日~4日 (於: 横浜市開港記念会館) 協賛: 応用物理学会、電気学会、日本物理学会、日本機械学会、日本表面真空学会、日本冷凍空調学会

- 2) 日本伝熱学会主催「第 63 回日本伝熱シンポジウム」  
協賛 2026 年 5 月 26 日～28 日（於：札幌コンベン  
ションセンター）
- 3) 日本表面真空学会主催「第 61 回真空技術基礎講習  
会」協賛 2026 年 5 月 26 日～29 日（於：大阪産業技  
術研究所）
- 4) 日本機械学会 動力エネルギーシステム部門主催「第  
30 回動力・エネルギー技術シンポジウム」協賛 2026  
年 6 月 4 日～5 日（於：シャトレーゼホテル談露館）
- 5) プラズマ・核融合学会主催「第 16 回核融合エネ  
ルギー連合講演会」協賛 2026 年 7 月 23 日～24 日（於：  
北海道大学）
- 6) 日本混相学会主催「混相流シンポジウム 2026」協賛  
2026 年 8 月 31 日～9 月 2 日（於：筑波大学）
- 7) 日本表面真空学会主催  
「第 63 回（2026 年度）夏季大会」協賛 2026 年 9 月 2 日  
～2026 年 9 月 5 日（於：八王子市生涯学習センター）  
「第 7 回オンライン真空講習会入門講座」協賛 2026 年 7  
月 2 日～2026 年 12 月 18 日（オンライン）  
「第 7 回オンライン真空講習会」協賛 2026 年 9 月 8 日～  
2026 年 12 月 18 日（オンライン）  
「第 6 回オンライン真空応用技術講座」協賛 2026 年 9 月  
8 日～2026 年 12 月 18 日（オンライン）
- 8) 東北大学流体科学研究所 ICFD 実行委員会主催  
「Twenty-third International Conference on Flow  
Dynamics（第 23 回流動ダイナミクスに関する国際会  
議）」協賛 2026 年 11 月 9 日～12 日（於：仙台国際セ  
ンター）
- 9) 国際超電導シンポジウム（ISS）実行委員会主催 「第  
39 回国際超電導シンポジウム（ISS2026）」後援 2026  
年 12 月 1 日～3 日（於：富山国際会議場）

# 収支予算書

令和 8年 4月 1日から令和 9年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	3,500	500	3,000
基本財産運用収入	3,500	500	3,000
特定資産運用益	11,000	500	10,500
特定資産受取利息	11,000	500	10,500
受取会費	17,751,730	16,534,770	1,216,960
正会員会費収入	7,474,940	6,166,500	1,308,440
賛助会員会費収入	6,540,000	6,540,000	0
学生会員会費収入	577,500	587,500	△ 10,000
事業会員会費収入	3,159,290	3,240,770	△ 81,480
関西支部会費	760,000	760,000	0
東北・北海道支部会費	160,000	160,000	0
九州・西日本支部会費	300,000	300,000	0
冷凍部会費	1,593,000	1,593,000	0
図書会費	346,290	427,770	△ 81,480
事業収益	20,338,000	17,167,000	3,171,000
研究会・講習会収入	16,788,000	14,297,000	2,491,000
出版収入	820,000	640,000	180,000
広告収入	2,530,000	2,030,000	500,000
補助金収入	200,000	200,000	0
受取補助金等	2,200,000	782,000	1,418,000
受取補助金	0	782,000	△ 782,000
受取助成金	2,200,000	0	2,200,000
雑収益	267,500	200,200	67,300
受取利息	17,500	200	17,300
雑収入	250,000	200,000	50,000
経常収益計	40,571,730	34,684,970	5,886,760
(2) 経常費用			
事業費	32,821,289	31,192,445	1,628,844
給料手当	5,723,760	5,548,560	175,200
臨時雇賃金	320,500	320,500	0
退職給付費用	234,600	156,840	77,760
福利厚生費	741,120	742,920	△ 1,800
会議費	2,906,600	1,937,600	969,000
旅費交通費	2,595,500	3,053,900	△ 458,400
通信運搬費	1,618,316	1,499,518	118,798
減価償却費	48,000	346,667	△ 298,667
消耗品費	720,500	685,700	34,800
修繕費	180,000	0	180,000
印刷製本費	5,605,000	7,537,000	△ 1,932,000
光熱水料費	108,000	108,000	0
賃借料	2,724,300	2,966,520	△ 242,220
諸謝金	2,898,000	3,219,110	△ 321,110
諸会費	70,800	70,800	0
租税公課	201,300	197,400	3,900
報償費	725,091	682,684	42,407
支払負担金	301,000	202,100	98,900
委託費	4,099,914	1,425,800	2,674,114
支払手数料	877,988	355,826	522,162
雑費	121,000	135,000	△ 14,000
管理費	7,903,956	6,880,280	1,023,676
給料手当	3,815,840	3,699,040	116,800
退職給付費用	156,400	104,560	51,840
福利厚生費	494,080	495,280	△ 1,200
会議費	52,400	44,400	8,000
旅費交通費	402,000	592,000	△ 190,000
通信運搬費	477,760	526,400	△ 48,640

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
減価償却費	32,000	80,000	△ 48,000
消耗品費	290,000	186,800	103,200
修繕費	120,000	0	120,000
印刷製本費	110,000	125,000	△ 15,000
光熱水料費	72,000	72,000	0
賃借料	444,200	444,200	0
諸会費	47,200	47,200	0
租税公課	136,200	133,600	2,600
委託費	1,085,276	163,200	922,076
支払手数料	147,600	147,600	0
雑費	21,000	19,000	2,000
経常費用計	40,725,245	38,072,725	2,652,520
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 153,515	△ 3,387,755	3,234,240
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 153,515	△ 3,387,755	3,234,240
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 153,515	△ 3,387,755	3,234,240
一般正味財産期首残高	55,835,205	50,683,829	5,151,376
一般正味財産期末残高	55,681,690	47,296,074	8,385,616
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 基金増減の部			
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	0	0	0
基金期末残高	0	0	0
IV 正味財産期末残高	55,681,690	47,296,074	8,385,616



